



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ● トピックス

令和8年度 第1回 金沢医科大学氷見市民病院 市民公開講座

戸出七夕まつり

CONTENTS ● もくじ

TOPICS	令和8年度 第1回 金沢医科大学氷見市民病院 市民公開講座	P.01
特集	社会に学ぶ『14歳の挑戦』	P.02
	小野先生の診察室から	P.03
	診療コラム	P.04
	病院★ニュース	P.05
	病院からのお知らせ掲示板	P.06
	デイケア通信	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

金沢医科大学氷見市民病院のホームページ
<http://www.kanazawa-med.ac.jp/~himi/>



令和8年度

第1回 金沢医科大学氷見市民病院 市民公開講座

メインテーマ

「知らないきや損！聞かなきや損です！美と健康のはなし」

日時

令和8年 6月13日(土)
午後1時30分～3時30分

会場

氷見市芸術文化館

今年度第1回となる市民公開講座は、「知らないきや損！聞かなきや損です！美と健康のはなし」をメインテーマとして歯科口腔外科の蓮本美穂先生、産婦人科の佐伯吉彦先生がそれぞれの専門分野の観点から講演を行いました。



開会に先立ち、今年度から病院長に就任した川原範夫病院長が挨拶を行い、本公演が開会しました。

はじめに、「矯正歯科治療について」と題し、歯科口腔外科の蓮本美穂先生が講演を行い、子供から大人までの矯正治療について、気になった時こそ相談のタイミングであり、大人の矯正治療に対する年齢制限はないと説明されました。歯並びがなぜ悪くなるのか、歯並びが悪いと何がいけないのかお話しされ、本題の歯科矯正治療について実際の症例を見せながらより詳しく説明されました。

次に、「つらい生理、もう我慢しない」と題し、産婦人科の佐伯吉彦先生が講演を行い、生理痛で悩んでいる人がどの



産婦人科 佐伯吉彦 医師



歯科口腔外科 蓮本美穂 医師

くらいいて、生理痛の程度はどの程度なのかグラフを用いて分かりやすく説明されました。また、低用量ピルの内服方法や、注意点、普段の診察でよくある質問をピックアップして紹介されました。



講演後には、参加者の方から自身の気になるとな質問され今年度からCEOに就任した北山道彦CEOが閉会の挨拶を行い、無事盛会のうちに終了することができました。

受講者のアンケート結果により、「知らなかったことを知れたので良かった」「少しでも知りたく、首を長くして待っています」といった評価をいただき大変嬉しく感じます。職員のモチベーションアップにも繋がります。次回は令和9年1月23日に「第2回市民公開講座」を予定しております。今後開催してほしい講演や、ご意見ご要望がありましたらお気軽に氷見市民病院総務課までご連絡下さい！



病院の給食体験中



患者さんのことを
考えた
食事なんだね

食事も治療の
一つなんだね

今年も、北部中学校・南部中学校の2年生6名を迎え、「14歳の挑戦」を実施しました。
プログラムでは、院内のさまざまな部門を見学し、それぞれの仕事内容の説明を受けるとともに、医療機器の操作方法などを学び、実際に体験する機会もありました。
ミキサー食の試食では、「(ペースト状の)見た目に反して、味がしっかり付いていておいしい」と驚きの声が上がりました。また、入院患者さんと同じ給食を食べることで、食事を通じたケアの大切さを実感していました。

期間 令和8年7月6日(月)～7月10日(金)

社会に学ぶ『14歳の挑戦』

初日は緊張した様子だった生徒たちも、体験を重ねるにつれて表情が和らぎ、次第に自ら積極的に質問したり、スタッフの説明を熱心にメモしたりする姿が印象的でした。特に、臨床検査技師や臨床工学技士、診療放射線技師など、これまで馴染みのなかった職種の専門的な業務には深い興味を示しており、その様子は活動日誌からもうかがえました。



救命措置(AED)講習

いざという時に
役立てたい!

AEDの使い方を
初めて知った!



患者さんが
安心できるように
対応します!



各専門職が連携して患者さんを支える「チーム医療」を肌で感じた5日間。この体験が、生徒たち一人ひとりの将来を考えるきっかけとなり、地域医療への理解を深める貴重な機会となったことを願っています。

5日間の体験プログラム

7月6日(月)	AM:オリエンテーション、院内見学 PM:リハビリテーション(PT・OT・ST)
7月7日(火)	AM:患者さんの誘導・マイナンバーカード確認 管理栄養士 PM:健康管理センター
7月8日(水)	AM:医療安全・感染対策、薬剤師 PM:臨床検査技師、救命措置(AED)講習
7月9日(木)	AM:臨床工学技士、総務課(事務職) PM:医師(小畑医師) 診療放射線技師
7月10日(金)	AM:医事課(事務職)・社会福祉士 施設管理 PM:看護師



患者さんの気持ちが
少し分かった気が
します

思ったより
動きにくい!

リハビリテーション体験中

おの
小野先生の
診察室から

高齢医学科

小野

TAISUKE
ONO

太輔

臨床教授

氷

見市民病院・高齢医学科の小野太輔と申します。2026年4月に金沢医科大学病院から当院に着任しました。

私は鹿児島出身で、帝京大学医学部を卒業し秋田県由利本荘市の本荘第一病院にて僻地医療などの研修を行いました。その後は秋田大学精神神経科学教室に入局し、大学附属病院をはじめ精神科救急拠点病院や精神科単科病院などの関連病院で精神科診療の研鑽を積みました。

また東日本大震災の復興プロジェクトにも参加し、岩手県にて被災地の医療支援に従事しました。当時在籍していた秋田大学精神神経科学教室では伝統的に睡眠医学の研究が盛んであり、米国スタンフォード大学の睡眠・生体リズム研究所に派遣され睡眠研究にも従事しました。



米国スタンフォード大学研究室

2022年4月の帰国と同時に金沢医科大学に着任し、以降は高齢医学科にて一般内科医として臨床・研究・教育に携わってまいりました。高齢医学科では内視鏡やカテーテルな

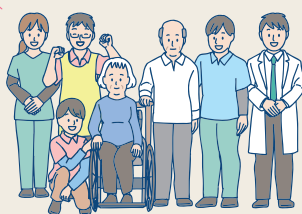
どの専門的な検査・治療を行っておられません。一般内科の診療を幅広く担当しております。当科で入院された患者さんの中にも退院後はかかりつけの先生

のもとで治療を再開される方が多いため、円滑な紹介・逆紹介のシステムを構築し、これからもさらに病

診連携を進めていきたいと考えております。

今後はこれまでの経験を活かし、微力ながら氷見市の地域医療に寄与できるよう尽力してまいります。引き続き地域の皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

地域医療との連携で退院後も安心



小野 太輔 ★ 略歴

【学歴・職歴】

2011年3月 帝京大学 医学部医学科 卒業
2013年4月 秋田大学 精神神経科学教室 入局
2018年4月 スタンフォード大学 睡眠・生体リズム研究所 客員研究員
2021年4月 スタンフォード大学 睡眠・生体リズム研究所 博士研究員
2022年4月 金沢医科大学 高齢医学科 講師
2023年4月 金沢医科大学 高齢医学科 臨床准教授
2024年4月 金沢医科大学 高齢医学科 准教授
2026年4月 金沢医科大学氷見市民病院 高齢医学科 臨床教授

【資格・所属学会】

●日本睡眠学会
睡眠総合専門医
●米国睡眠学会
●精神保健指定医



診療コラム

地域包括医療病棟（4階西）

地域包括医療病棟は、高齢化社会のニーズに特化した病棟です。金沢医科大学氷見市民病院でも、住み慣れた地域で、自分らしく暮らすための「架け橋」となる病棟を目指し、2026年度3月より新設しました。当院の地域包括医療病棟では、脳神経疾患、急な病気や体調不良（肺炎、脱水症、尿路感染症など）で入院が必要になった患者さんや透析導入、腰椎圧迫骨折、めまい、眼科、小児科などの多種多様の患者さんを対象としています。

病棟では、単に病気やケガの治療を行うだけでなく、入院初日から医師、看護師、リハビリ専門職、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどが48時間以内に包括的な評価を



患者さん・ご家族・ケアマネジャーと連携し
充実した退院支援を提供します！



行い患者さんのサポートを行います。病気を治すことはもちろん、できるだけ早く住み慣れた環境へ退院できるように、早期からリハビリを介入し、日常生活動作の低下を予防、多職種と患者・家族・ケアマネジャーの方々と連携し充実した退院支援を提供します。

回復期リハビリテーション病棟（4階東）

当院の回復期リハビリテーション病棟では、住み慣れた地域へ帰れるよう、生活の力を取り戻すお手伝いをしています。

病棟では、医師や看護師、リハビリスタッフだけでなく、管理栄養士が一人ひとりのお身体に合わせた栄養面のサポートを行います。必要に応じて入院中からソーシャルワーカーが退院後の生活環境を整えるなど、多職種が連携して365日体制で患者さんを支えています。また、地域のケアマネジャーなど情報を共有し、支援体制を整えています。



多職種と連携し、「その人らしい暮らし」ができるよう
サポートしています！



私たちが目指すのは、身体の機能回復だけではなく、これまでの生活背景やご希望に寄り添った「その人らしい暮らし」の実現を目標としています。生きがいを持って生活できるように多職種で連携して取り組んでいます。

地域包括医療病棟（4階西）・回復期リハビリテーション病棟（4階東）の紹介

糖尿病教室の開催について

日時 令和8年6月16日(火) 午前11時30分
場所 6階多目的ホール

当院では年5回、糖尿病教室を開催しています。今年度第1回は6月16日に開催し、管理栄養士による講義のほか、血糖測定や試食会、コグニサイズ(認知機能と運動を組み合わせた体操)と、看護師から「脱水」について講義を行いました。受講された皆さんも楽しみながら積極的に参加していました。試食会では、当院の入院食と同じメニューをお召し上がりいただき、栄養バランスや適切な味付けを実際に体験していただいています。

教室には看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士が参加しており、食事や運動、薬についてお気軽にご相談いただけます。今年度はあと4回開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



エネルギーコントロール食

第26回 富山県公的病院 医療安全研究大会

日時 令和8年6月27日(土) 午後1時
場所 富山県芸術文化ホールオーバード・ホール 中ホール

6月27日、「第26回富山県公的病院医療安全研究大会」が富山県芸術文化ホール(オーバード・ホール)の中ホールにて開催され、県内の公的病院関係者が多数集い、医療安全の向上に向けた知見を共有しました。

当院からは、一般演題において中央放射線部の田和光診療放射線技師が登壇し、「放射線防護衣の保守管理」と題し、日々の医療従事者の安全を守るための防護衣の破損状況や、保守管理のシステム化、今後の課題といった具体的な運用事例を交えて発表を行いました。

また、特別講演では、御堂筋法律事務所の山崎祥光弁護士による「紛争対応の基本」と題した講演が行われ、医療現場におけるリスク管理や、紛争の種類・段階・動向について、様々な視点や実例を交えて解説されました。万が一の発生時において、事実が不明瞭な段階で回答することの危険性や、個人ではなく組織(チーム)で冷静かつ誠実に対応することの重要性が説かれ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

全会を通して活発な質疑応答が行われ、盛会裡に閉幕しました。



令和8年度 第1回院内感染対策講習会

日時 令和8年6月8日(月) 午後4時45分
場所 6階多目的ホール

令和8年6月8日(月)、当院6階多目的ホールにて「令和8年度第1回院内感染対策講習会」を開催いたしました。

今回は講師として、あさひ総合病院の内科部長である渡辺哲郎先生をお招きいたしました。ご講演では、現場におけるエビデンスの適切な適用や、個別具体的な状況による対策の「ズレ」を防ぐための実践的なアプローチについて、あさひ総合病院での具体的な事例を交えて詳しく解説していただきました。

参加した職員からは、日頃のケアや感染対策を多角的な視点で見直す貴重な契機となったとの声が聞かれ、非常に有意義な講習会となりました。当院では今後とも、職員一丸となって安全・安心な医療環境の維持に努めてまいります。

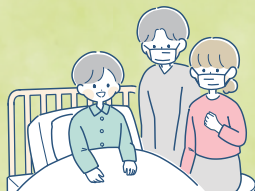


お知らせ掲示板

入院患者の面会について

当院では、感染拡大防止や入院患者さんへの感染防止の観点より下記のとおりルールを設け、面会を実施しています。

面会者の皆さまには、当院の対策にご理解・ご協力いただくとともに、ルールを守ってご面会いただきますようお願いいたします。



面会時間	14:00～18:00 (1時間程度)
人数	2名まで (許可を受けられたご家族及びキーパーソンの方)
場所	個室・病棟ダイニング
面会時のお願い	●マスクの着用と、手指消毒をお願いします。 ●面会中の飲食はご遠慮願います。 ●体調不良の方は、面会をお控えいただきますようお願いいたします。

また、お荷物の受け渡しは、各病棟のスタッフステーションまでお越しください。



発熱外来 受診方法のお知らせ

発熱症状のある患者さんの受付窓口が変更になりました。

受診される時間帯によって受付場所が異なりますので、ご注意ください。



受付時間内	8:00～11:00 13:00～16:00 正面玄関よりお入りいただき、総合受付へお申し出ください。	
診療時間外	救急受付へお越しください。 (時間外入り口のインターホンを使用)	

感染拡大防止のため以下のことを必ずお守りください

- マスクを着用し、検温、アルコール手指消毒を行ってください。
- 職員に、発熱症状があることをお伝えください。



医師着任のお知らせ(整形外科)

整形外科に、7月1日付で村上医師が着任しました。

医師4人体制で、今後も患者さんに寄り添った質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。よろしくお願いします。



村上 宗駿 医師

着任

[整形外科]

むら かつみ むねとし

村上 宗駿 医師

■外来担当医表(8月1日～)

		月	火	水	木	金	土
午前	1診	北島	北島	北島(初診)	北島	北島(初診)	第1・3週 植田 北島 村上 (交替)
	2診	植田(初診)	植田	植田	植田	植田	
	3診	村上	村上(初診)	村上	村上(初診)	村上	
	4診	—	—	—	川原病院長	—	
午後	—	手術	手術	手術	手術	手術	—

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。
8. 安定した経営基盤の確立に努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報保護は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかで自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話ください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないよう配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っています。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。



暑さが厳しい季節となりました。通所リハビリテーションでは利用者の皆さんが快適に過ごせるよう、室内の温度や湿度に注意し、必要に応じて冷房を使用しています。一方で、利用者さんの中には他の方と比べ寒く感じる方もおられるため、その方には上着をご持参いただき、体調に合わせて脱ぎ着しながら調節していただいています。

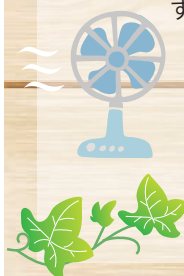
デイケア通信

また、入浴前後にはお茶で水分補給を行い、午後のおやつの間にはコーヒーや番茶、緑茶など、利用者さん毎のお好みの飲み物を楽しんでいただいています。



す。嚥下機能に不安のある方には、とろみをつけるなど、一人ひとりのお体の状態に合わせて提供しています。

高齢になると暑さや喉の渇きを感じにくくなるため、ご自宅でも無理せず冷房を活用し、こまめな水分補給を心がけることが熱中症予防につながります。これからの安心して暑い夏を過ごしていただけるよう支援してまいります。



表紙について

戸出七夕まつりは、昭和38年から続く夏の風物詩です。最近では各家庭の軒下に七夕を飾る風景を見かけることもなくなりましたが、色とりどりの七夕飾りを眺めながら歩いていると、子どもの頃の夏の思い出がよみがえりました。あの頃はどんな願いを書いていたのだろう、今なら何を願うだろう……。そんなことを考えながら、やはり一番に思い浮かぶのは「健康」。昔は思いもしなかった願いが真っ先に浮かぶことに、自分も大人になったものだ、時の流れを実感しました。七夕に願いを託すように、皆さまがいつまでも健やかに過ごせますように。

編集後記

昨年と同様に暑い夏となっていますが、今年は熱中症や虫刺され、海水浴でのトラブルなどが例年より多い印象にあります。一方で昨年まで夏に増えていたコロナウイルス感染症に罹患される方は少なくなっており、これまで医療機関受診の際には義務化されていたマスク着用が任意とする動きが県内各地で出始めています。この動きを受け当院もマスク着用緩和に向けて現在検討しております。しかし、今年の麻疹のように予期せぬ感染症の流行もありうるため、マスク着用緩和後もご自身の体調や周囲の環境等に応じた対応をして頂くのが良いでしょう。暑い夏が続きますが、体調管理には十分ご注意ください。

かけはし夏号編集委員
耳鼻いんこう科・感染対策室 坪田雅仁

■広報誌「かけはし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。

病院広報誌
「かけはし」への
ご意見等はこちら

<https://forms.gle/KPuhcusKD87gkQ9j6>

